

1人1台端末環境を基盤とした授業改善

井原市立出部小学校

2025.3.17

岡山県教育委員会
教育情報化推進室

既習を生かして未習に挑む

岡山県学力・学習状況調査等の質問紙に、「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含みます）。」の項目があります。その質問項目に肯定的な回答をした児童生徒のうち、自分で計画を立てて予習に取り組むことができる（習慣が身に付いている）児童生徒は、大変頼もしい「自立した学習者」と捉えることができるでしょう。

井原市立出部小学校の4年生では、算数の学習を中心に、「**予習**」に取り組んでいます。小数の割り算の単元、筆算が登場する場面では、既習を生かして次時の問題を解く予習に取り組みました。予習は、教師が学習支援ソフトを活用して教科書の例題を配信し、児童は家庭学習で取り組んできます（今回は計算の仕方の説明）。各自が取り組んだ予習は共有できるように設定しており、授業前には①の写真のように、自分で端末を開いて**他者参照**する主体的な児童の姿があります。予習の途中で躓いたことを書いている児童もありますが、何が難しかったかを明らかにして授業に臨んでいます。授業が始まると「習ったことを生かしたら解けるよ！」と予習の効果を発揮して、友達に解き方の説明を始めます。



ある児童は、配信された予習に取り組む前に、教科書に直接書き込む形で、例題の穴埋め式の説明に取り組んでいました。始めから自分の言葉で説明することを難しく感じたようです。このように自分で計画を立てて取り組むことは、「自ら学習を調整する」姿の一端です。また、説明が自力では不十分だったと気付いた児童は、②の写真のように、教科書に直接書き込みながら正確な説明ができるように取り組み始めました。



このように、**家庭学習と授業が連動する取組**によって、先生も児童生徒も授業時間を効率的に使うことができ、他教科等の学びにおいても、児童生徒が自発的に既習を生かして未習に挑む姿が現れるのではないのでしょうか。「予習」については、自分のペースで教科書を読み取ることを前提に、次のような取組例が考えられます。紙の教科書をベースに考えていますので、いつからでも取り組むことが可能です。

【児童生徒の教科書を活用した予習の取組（例）】 ※デジタル教科書でも可能です

- 次の学習内容のページを読み、重要な語句等にアンダーラインを引く
- 知らない言葉の意味を調べて書き込む
- 算数・数学等では問題を解いてみる
- 本文と資料（図、写真、写真等）を結びつける
- 本文や資料等を読み取って、驚いたこと（!）や疑問（?）を表す
- 本文や資料等を読み取って、気付いたことを書き込む
- 端末でQRコードを読み取って、デジタルコンテンツ（動画等）を閲覧する
- 難しいこと（わからないこと）や授業で詳しく学習したいことを見つける
- 記述されているガイドをヒントに、見方・考え方、学習の進め方等を押さえる

